

住民接種に必要な医療従事者数

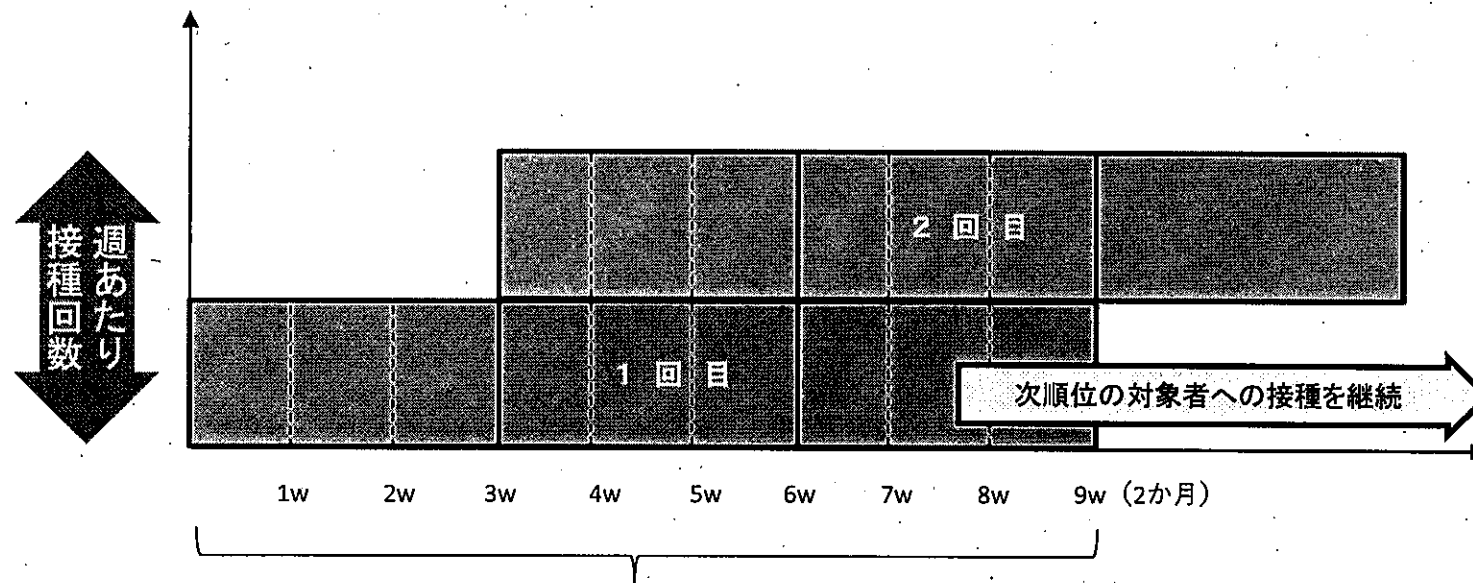
整備の目標とする接種体制の規模

- 市町村において、早期に接種を進めることのできる体制を整備する観点から、具体的な被接種者数を想定して、接種の体制整備を行う。
- 65歳以上の高齢者に相当する人数の1回目、2回目の接種をそれぞれ2か月以内で実施できることを念頭に、週あたりに提供する接種回数を算出し、体制整備の目標とする。

※ 実際の接種は本人の同意に基づいて行うものであり、全員が接種を受けることを目指すものではない。2か月の間であっても、状況により、次順位の対象者への接種に移っていくことになる。

高齢者に相当する人数の1回目、2回目の接種をそれぞれ2か月以内で実施できる体制

- $\frac{\text{人口} \times \text{高齢化率}}{\text{(65歳以上の人口)}} \div 9 \text{週間} \times 2 = \text{週あたりの接種回数}$
(2回接種)



65歳以上の高齢者に相当する人数に、2か月で1回目の接種を実施することを想定

出典：令和3年1月25日
第2回自治体向け説明会資料

市町村が特設会場を設けた場合における接種の具体的なイメージ

必要な準備

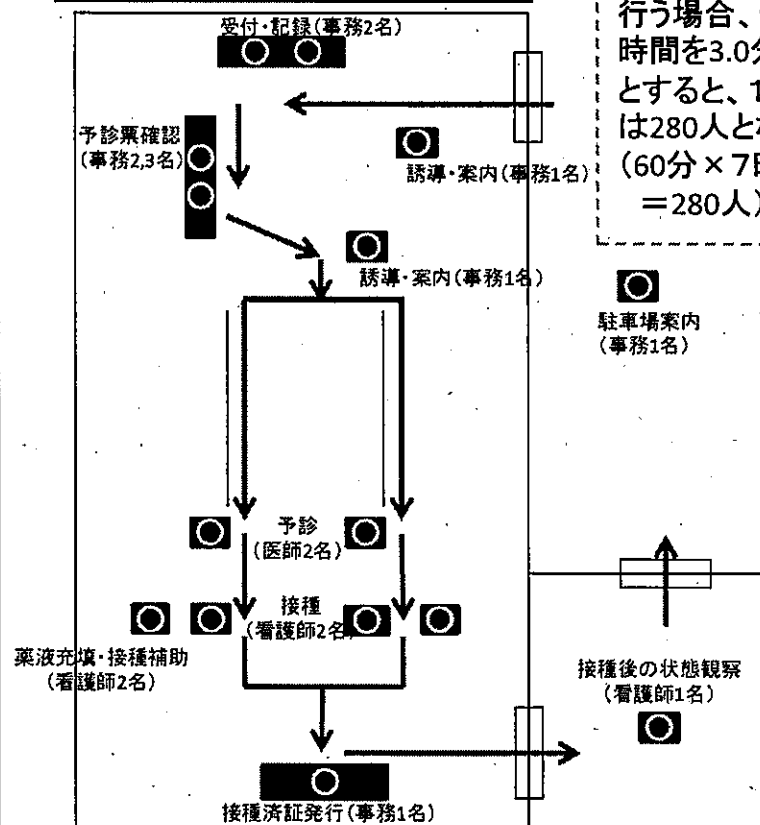
- 会場の確保 ※医療機関でない場所を接種会場として用いる場合は、診療所開設の届出等が必要
- 運営方法の検討：直営／委託、運営管理責任者の明確化、予約受付方法、応急対応の方法 等
- 従事者の確保
- ワクチン等の配送先の登録：V-SYSに配送場所、担当者名、担当者連絡先等の情報を登録
- 必要物品の確保・保管

リハーサル動画を
提供予定！

当日の流れ

- ① 受付
検温、身分証明書の確認、予診票記載の案内
- ② 予診票確認
記載項目の抜け漏れ・不備のチェック、（2回目接種の場合）接種間隔や1回目接種ワクチン種別の確認
- ③ 予診（医師）
体調や持病を確認する等必要な診察を接種前に行い、予防接種を受けることが適当でない者または予防接種の判断を行うに際して注意を要する者に該当するか否かの確認
- ④ 接種（医師または看護師）
薬液を充填する者（薬剤師等）も別に配置が必要
- ⑤ 接種済証の交付
接種したワクチンのワクチンシールを接種済証に貼用し、接種日・接種場所を記載する
- ⑥ 接種後の状態観察
アナフィラキシーや血管迷走神経反射等の症状が生じることがあるため、一定期間観察を行う

会場設営のイメージ



1会場あたり2列体制で接種を行う場合、予診から接種までの時間を3.0分、実施時間を7時間とすると、1日あたりの接種人数は280人となる
 $(60分 \times 7時間 \div 3.0分 \times 2列 = 280人)$

高齢者への接種に必要な医療従事者数のイメージ（府試算）

国資料より

- ・集団接種1会場あたり医師2、看護師5名の体制で、1日280回の接種
- ・**9週間で高齢者への2回目接種を実施できる体制**

(集団接種における接種体制モデル)

職種	想定人数	役割等
医師	2人	予診
看護師	5人	薬液充填、接種補助、接種、状態観察等

(1会場あたり。その他事務職員数名程度要)

国資料をもとにした府試算

※あくまで試算であり、実際の接種体制を示すものではない

	集団接種	病院接種		診療所接種	
1日あたり接種回数	280回	100回	50回	32回	16回
医師	2人	1人	1人	1人	1人
看護師	5人	2人	1人	1人	1人
備考	国試算（接種時間1人3分、2列×7時間対応）			国試算準用（接種回数按分）	

モデル市		集団接種のみの場合	病院接種のみの場合		診療所接種のみの場合	
人口10万 高齢者人口2.7万人 ↓ 接種5.4万回	必要か所数	4か所/日	9か所/日	18か所/日	27か所/日	54か所/日
	医師数	8人/日	9人/日	18人/日	27人/日	54人/日
	看護師数	20人/日	18人/日	18人/日	27人/日	54人/日
人口30万 高齢者人口8.1万人 ↓ 接種16.2万回	必要か所数	12か所/日	27か所/日	54か所/日	81か所/日	162か所/日
	医師数	24人/日	27人/日	54人/日	81人/日	162人/日
	看護師数	60人/日	54人/日	54人/日	81人/日	162人/日

(希望率100%の前提で試算)